

福井豪雨で変わった人々の気持ち

足羽第一中学校 一年 吉村 友杜

今から二十年前の七月十八日に福井豪雨に
よる足羽川が氾濫し、足羽川左岸の堤防が決
壊した災害があった事を新聞の特集で初めて
知った。僕の家のお近くにある天神橋地点では、
十八日早朝四時から十時までの六時間雨量が
二百二十八・九ミリを記録し、千年に一度
程度の大雨だった。浸水家屋の被害が広が
った。一つの原因が堤防が決壊したことだ。

上流の水害から約四時間で決壊したらしい。
僕の家は被害が大きかった旧美山町と近い地
域だが、高い位置にある「ハザードマップ」で
も洪水や土砂災害警戒区域になつていないし
為か被害はなかったそうだ。

福井豪雨では、旧美山町、鯖江市、旧今立
町で四人が死亡し、旧美山町で一人が行方不
明となった。浸水家屋は福井市で一万余棟超
えをはじめ、奥越、丹南と広範囲にわたった。
母の知り合いで避難した方の話を聞くと、ひ

ざ上まで水が来て、いす中を避難所まで移動したり、車をショッティングセンターの屋上に早めに移動させたりしたそうだった。父は土木関係の仕事をしていたので、足羽川が決壊した所の泥やゴミの片づけをしたそうだった。片づければ、近くの家の人や地域の人たちと夜中から朝まで一週間近く行っていたが、まだまたくさんの泥やゴミが残っていたらしく、とても大変だったと話してくれた。

福井豪雨の被害は河川が氾濫する外水氾濫

だけでなく、排水路や下水道などで雨水が処理できずにあふれた内水氾濫も発生してしまっている。被害が拡大した。このような被害が起きないよう、現在は池田町に日本最大級の流水型ダムの足羽川ダムを建設しているそうだった。足羽川ダムの特徴は、日本で数か所しかない「洪水専用の流水型ダム」であることだ。しかも、ダムを開閉するゲートがついていて、のは日本でここだけだそうだった。堤体と呼ばれるダム本体のスケールも特徴の一つで、長さ

が約三百五十一メートル、高さが約九十六メートルもある。約二千八百七十立方メートルの水を貯めることができた。流水型ダムは、普段は水を貯めずに川を流し、大雨になり洪水が発生したらダムが起動し、洪水が落ち着いたら下流に安全な水の量を流すという働きをするそうだ。

他にも田んぼダムというものを行っている地域がある。この地域では、一時的に田んぼに雨水を貯めて排水溝の流量調整板により、排水位の上昇を抑えることができる。この方法なら田んぼが多い、僕たちの地域でもできるのだと思った。

また、小浜市の江古川周辺で初めて輪中堤というものが採用された。輪中堤とは、洪水の氾濫から町を守るために周囲を囲むように作られた堤防だそうだ。連続堤（川の流れに沿って連続して作られている）や河川の掘削などに比べて工期が短く、早く対処できるために採用されたい。被害を最小限に抑

え、ために考えられたこのような方法は、
福井豪雨のような被害が出ないようにするに
はどうすればよいか。命を守るためにみんな
で考えよう、という被害にあつた人々の気持
ちを僕は感じた。

僕は、新聞の記事や写真を見た。一番最初
に
うわあ。汚い水がいっぱい流れているな。
歩いたり、移動をするのが大変そうだな。こ
んなに大変なことがあつたなんて知らなかつ

た。

と家族と話した。話をしていると、どん
どんと興味がわいてきた。なので、記事を読んだ
り、話を聞いたりして、福井豪雨について調
べてみようと思った。現在は内水氾濫の対策
は、行なわれていゝが、外水氾濫の対策は何
も行つていないと感じた。なので僕は、川の
堤防を頑丈にすることもある大事な対策になり
ではと思つた。しかし、それには時間や費用
など様々な問題が発生することもある目に見えて

い。洪水や地震などによる土砂災害対策には色々な角度から、色々な分野の人達の意見などを取り入れていくことがこれからの未来を考えるうえで大切になってくろと思う。被害が大きくならないように、こゑだけの対策や考えがあつても福井豪雨では避難指示が出ていた地域で約六割の人々が避難をしなかつたらしい。

自分は大丈夫、過去にも被害はなかつたと過信していたそうだが、自分の命は自分で守

るために私は大丈夫と過信せずに一人一人が意識を変えて行動していくことが最も大切なことなのかもしれない。僕はこの十二年間で災害を一度も体験したことはないが、この記事を読み感じたことを忘れずに僕にできるとは何かを考えていきたい。

参考文献

令和六年七月十八日

福井新聞

福井豪雨20年特集